

新しい国へ移る

IPMU 機構長

村山 斉 むらやま・ひとし

カリフォルニアのパークレイへ移ったとき、住むところを見つけ、社会保障番号を取得し、銀行口座を開き、どこで食料品を買うのかを学び、生まれたばかりの二番目の子供用のベビーベッドを含む様々な家具を揃え、確定申告のやり方を学ぶ必要がありました。新聞の案内広告を見てアフガニスタン難民から車を買いましたが、トラベラーズ・チェックを信用してもらえず苦労しました。英語は問題ないつもりでしたが、それでも制度・習慣・ライフスタイルの違いには驚き、映画や政治の話が次から次へと出て来る昼食時の会話についていくのは大変でした。

IPMUが始まってから日本に落ち着くにも苦労がありました。その前年まで日本での収入はゼロでしたから、クレジット・カードの申請は却下されました。決まった住所と固定電話無しでは携帯電話の契約も出来ません。私の日本語は洋書の質の悪い翻訳のように聞こえるらしく、いつも笑われます。そして最も重要なことには、日本での仕事の仕方を知らず、数々の暗礁に乗り上げました。一方、日本がとても安全、清潔で、公共交通機関が非常に信頼できることにはびっくりしました。

IPMUでは外国から楽に移住できるよう出来る限りの努力をしています。移住にまつわる情報を提供する詳しいウェブサイトを作りました。到着した研究者が違和感なくおちついてすぐ仕事が始められるように、国際交流係、秘書係、その他のスタッフが信じられない程の援助をしています。パークレイから来た私の学生が事故に合ったときは、回復するまで大変な努力をしてくれました（本人はすっかり回復してアメリカの

ポスドクになっています)。今号では西川まさみさんの日本語教室がどんなに楽しくて役に立つか読むことができます。ジュリア・フリードマンの経験談では研究者の配偶者にとってはかなりのストレスがあることがわかりますが、私自身少しでも助けることができたのが嬉しいです。そしてその陰では文章にできない無数の努力があるわけです。IPMUのスタッフはすばらしいと思います！

